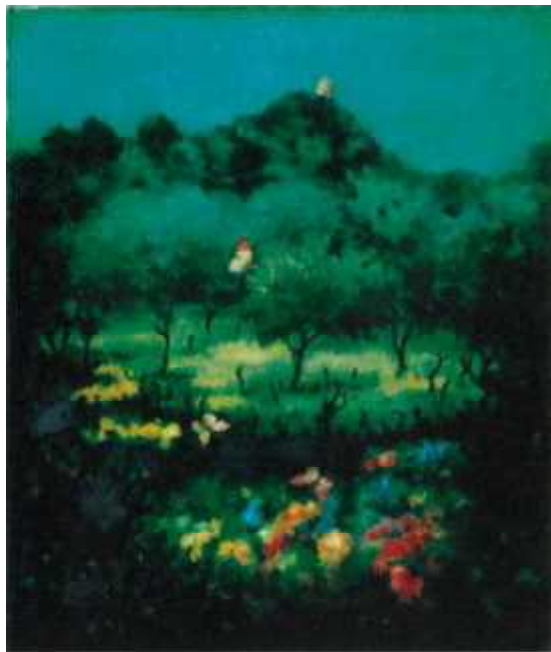


令和4年3月15日発行 鷹山宇一記念美術館友の会
 〒039-2501 青森県上北郡七戸町字荒熊内 67-94 七戸町立鷹山宇一記念美術館内
 TEL 0176-62-5858 FAX 0176-62-5860 e-mail info@takayamamuseum.jp http://www.takayamamuseum.jp/



鷹山宇一「塔の見える風景」1969年 キャンバス・油彩 個人蔵

「塔の見える風景」

私の一日の仕事の始まりは展示室の鍵を開けるところからスタートします。毎朝鍵を開けながら、展示作品を見て回るので、このときよくやっているのが、その日の自分の気持ちにあった絵を探すことです。もちろん、毎日絵が入れ替わるなんてことはありませんが、自分のそのときの気持ちによつて同じ作品でも感じ方が変わってくるのです。元気が欲しいときに見える絵、落ち着きたいときに見える絵、勇気が欲しいときに見える絵、毎朝作品をみながら一日のパワーをもらうのです。

今回表紙で紹介するのは『塔の見える風景』1969年鷹山宇一61歳のときの作品です。胸にスツと溶け込むようなすがすがしい緑に囲まれた森にはやわらかな陽光が降り注ぎ、蝶が舞い、草花の美しい色彩がキラキラと輝きます。奥に見える山のてっぺんには白い塔が顔を覗かせます。ガラスのように磨き抜かれた透明感溢れる画面は、より一層この幻想的な世界を創り上げ、私たちを夢幻の世界へ導きます。

私はこの作品を見ると、絵と自分の間を爽やかな風が通り抜けるような感覚に包まれ、スツキリした明るい気持ちになります。鷹山作品の中でも好きな作品の一つで、私に元気を与えてくれます。

現在当館では「虹の上をとぶ船」今、あなたに届けたい教育版画」を開催中です。八戸市で中学教師をしていた坂本小九郎氏が指導し、湊中学校養護学級の子どもたちが共同制作した版画「虹の上をとぶ船」シリーズから3作品をご紹介します。(詳しくは3頁へ)様々な重く息苦しいニュースが取り巻くこのような状況の時に、皆様に元氣や勇氣を与える作品を展示できないかと話し合う中でこの企画が生まれました。こどもたちが、互いに話し合い、協力し合いながら創り上げた壮大な物語りは、見る人に大きなエネルギーとなり降り注ぎます。

今は毎朝この作品を前にしていますが、様々な不安を取り除いてくれるような神聖な気持ちになります。

まだまだいろいろな制限がかかる状況ではありますが、一人でも多くの方に「あなたに」見て欲しい展覧会です。そして、子どもたちが祈りを込めた版画作品が皆様の心のどこかに共鳴し、希望や勇氣の光となりましたら幸いです。

学芸員 遠藤未奈子

虹の上をとぶ船

今あなたに届けたい教育版画



コロナが世界的な大流行となり、人々のそれまでの生活が様変わりし、重く息苦しい空気が支配するようになりました。そのような

な時に、人々に元氣や勇氣を与える作品を当館で展示できないかと考え、坂本小九郎氏が指導した版画「虹の上を飛ぶ船」を紹介することにしました。

1956年（昭和31）から1980年（昭和55）の25年間、八戸市の中学校教諭坂本小九郎氏が当時の生徒たちとともに制作した版画の数々。そこには子どもたちが自分の目で見た地域の暮らしや歴史、願いや希望が刻み込まれているからです。

本展では湊中学校養護学級の子どもたちによる共同制作「虹の上をとぶ船」シリーズの総集編Ⅰ「大鳥に乗って星空を飛ぶ子どもたち」、総集編Ⅱ「星空をペガサスと牛が飛んでいく」、完結編をご紹介します。

虹の上をとぶ船とは

1956年、坂本小九郎氏は美術教師として初めて赴任した鮫中学校で、版画制作を通して子どもたちの表現欲求を引き出していく指導を行います。版画の題材となったのは漁港で生きる子どもたちの生活です。坂本氏は「版画」という表現が、教室の中だけの表現活動ではなく、社会的な伝達性を持っていることを信じ、教室の中から学校全体へ、学校から地域へと多くの人々へ広げていくことで、表現の主体である子どもたちが、社会の中での自分に目覚めていくことを願いました。その中で生まれたのが、「漁港」「海の物語」「海の怪奇」などの版画集です。

1970年、湊中学校で養護学級を担当し、「船の一生」「虹の上をとぶ船」「虹の上をとんだ船はどんなことに会ったか」を制作、そして共同制作「虹の上をとぶ船総集編Ⅰ」「虹の上をとぶ船総集編Ⅱ」を、最後に2m×4mの巨大な作品「虹の上をとぶ船完結編」が完成しました。



虹の上をとぶ船 総集編Ⅰ
「大鳥に乗って星空を飛ぶ子ども」
八戸市立湊中学校養護学級昭和50年度在籍生徒指導：坂本小九郎
青森県立郷土館所蔵



虹の上をとぶ船 総集編Ⅱ
「星空をペガサスと牛が飛んでいく」
八戸市立湊中学校養護学級昭和51年度在籍生徒指導：坂本小九郎
青森県立郷土館所蔵

4月17日（日）まで開催中

休館日／月曜休館（祝日の場合は開館し翌日休館）
入館時間／10:00～18:00（最終入館 17:30）
入館料／一般 500円、高大生 300円、小中学生 100円



虹の上をとぶ船 完結編
八戸市立湊中学校養護学級昭和52年度在籍生徒指導：坂本小九郎
青森県立郷土館所蔵

令和4年度
美術館スケジュール

※変更になる場合がございます。

青森放送創立70周年
「GOMA展」

7 / 16 (土) ～ 9 / 11 (日)

弘前市出身の新鋭アーティスト

鷹山宇一・夢幻の世界に魅せられて
—鹿内秀雄・牧子コレクション—

4 / 29 (金) ～ 6 / 5 (日)

本展では鷹山宇一が描く幻想世界に魅せられ、作品との出会いから鷹山宇一の作品の収集を心に決めたという、青森市在住の鹿内秀雄氏のコレクションの一部をご紹介します。色とりどりの花や静物、蝶を配した作品や、故郷の緑や海の青を彷彿とさせる作品をご紹介します。

美術館コレクションとはひと味違った、コレクターが見る鷹山宇一。新たな発見があるかもしれません。



鷹山宇一「風景・静物」

「GOMA」の大規模個展を開催します。GOMA氏は自身の発達障がいを積極的に公表し、アーティスト活動を行っています。一切の下書き無しで描く精密で大胆な作品は国内外から注目を浴び、初の大規模個展となる今回は多くの新規描き下ろし作品を公開します。彼のライフワークでもあるボランティア活動から県立七戸養護学校とのコラボ作品、さらに青森ねぶたをフューチャーした展示も予定しています。

マニエル・ノワール 白と黒の世界
戸村春樹展

9 / 23 (金) ～ 11 / 13 (日)

戸村春樹氏 (昭和22年～平成28年 八戸市生まれ) のメゾチント作品

は、漆黒の空間に山々や雲、植物などをモチーフに、緊張感に満ちあふれた静寂の世界が描かれており、ロイズ国際小版画ビエンナーレなど、国内外の展覧会に多数入選しています。本展で

は、戸村氏のメゾチントを中心に、あわせてパステルや鉛筆などによるドローイングによる作品も紹介し、戸村氏の画業を振り返るものです。

第21回鷹山賞児童作品展
第21回JQA 世界児童画コンテスト優秀作品展

9 / 23 (金) ～ 11 / 13 (日)

青森県の小中学生に公募する絵画コンテスト「鷹山賞児童作品展」から入賞入選作品を展示します。併せて、地球環境をテーマにした「地球環境世界児童画コンテスト」から優秀作品に選ばれた世界各国の子供達の作品を紹介します。

第82回
国際写真サロンの展

3 / 4 (土) ～ 3 / 19 (日)

1927年に始まった国際写真サロン展(朝日新聞社・全日本写真連盟主催)の第82回展です。世界各国から出品され、写真表現や画像加工を駆使し、独創性と芸術性に富んだ写真作品を展示します。

令和3年度もありがと
ついでにしました。



令和4年度も皆様のご来館お待ちしております。



1月23日(日)は、「クレパスで絵を描こう」です。
新型コロナウイルス感染症の感染対策をとって実施しました。

複雑な手順になってしまったと反省。まず、チョークアート風の椿の配置が決まったら白いクレパスで輪郭を描く。椿は明るくしたい部分から暗い色の順に色を重ね指でこすってなじませ完成。椿以外の背景にはスクラッチのためには赤・青・黄と様々な色を塗り上から黒でカラフルな色を覆い隠す。仕上げに削る。2つの技法を取り入れるとどれがどの作業工程か大人は悲鳴を上げそうな様子。しかし、小学生の子はというと、そつなくこなしていました。こういうワークショップでは大人が子どもから学ぶことが多いのです。

額装してできあがり
スクラッチとチョークアート風のコラポはこんな感じに仕上がりました。



はじめにスクラッチの練習です。大人のように恐る恐る色を乗せると、ここまでははっきりとしたスクラッチは出来ません。次からは見習って思いっきり色を乗せましょう。

2月27日(日)に予定しておりましたワークショップ「七宝焼きをしよう」は延期となりました。

【せんべいストラップづくり】
— 明照保育園へ材料提供しました —

昨年の3月はじめ、明照保育園さんにお邪魔して、卒園する年長さんにワークショップ「せんべいストラップ」を開催しました。

今年もお問い合わせいただいていたのですが、新型コロナウイルス感染症により、外部講師を園内に入れられないということで、材料のみの提供をしていただけないかとの提案をいただきました。

ひばり館長からは「是非、チカラになってあげなさい」とのお言葉をいただき、準備に入りました。出来るだけわかりやすく使う物をそろえました。もちろんイラスト入りで作り方も用意しました。

これは先生達の力があるから出来る一つの方法。(本当はみんなとぶれあいながら制作したいです。)

コロナ禍でもワークショップを行う方法を模索していきます。



親子での教室です。

ごমনナヤイ
活動報告が
遅くありません



出張!!
城南児童センターへ

11月6日に城南児童センターさんの依頼でデコパージュの教室を開催しました。今回参加の子たちがどんな作品を仕上げたかご紹介いたします。



ひとりで作業に没頭する子もいれば、お母さんのチカラを借りて共同制作する子もいます。いろいろな親子の形が垣間見えます。



できあがった作品です。

一部しか紹介出来ませんが、どれもすごい! 力作ばかり!! 使うのが楽しみです。



【令和3年度を振り返って】

今年度もまた新型コロナウイルス感染症により、思うように活動出来ない年でした。昨年度は3月のデコパージュの教室が中止となって、今年度は無事に予定していたワークショップを開催できると思っていたのですが、今年度も出張のワークショップは、12月の上北地方小学校教育研究会の図画工作部会が中止、2月の七戸町生涯学習課主催の放課後子ども教室(全4回)も中止、美術館内のワークショップでは11月12月に開催する年賀状木版画教室の中止、となかなか思つてはいませんでした。それでもできるだけ、美術館で私が講師を務めるワークショップは中止ではなく、「ものづくりを楽しむ」の機会を奪わないよう延期の措置をとりました。

ワークショップはどうしても道具を共有してはいけな場面があります。人数は道具の数だけに限定することは可能ですが、それでも指導するとき接近を避けられない場合が多々あります。そのため言葉のみで伝える事の難しさを改めて感じました。

令和4年度は予定しているワークショップを全て行える事を、工房に楽しい笑い声が響くことを切に願ってやみません。

教育普及員 織川孝子

美術館日誌

◆1月◆

▼1日(金)〜3日(月) 年末年始休館

▼4日(火) 仕事始め

▼13日(木) 採用試験

(令和4年度教育普及員補助)

▼16日(日) 七彩雲

▼18日(火) 電気設備定期点検

(佐藤電気)

公民館講座打ち合せ

(南公民館館長補佐・織川)

▼19日(水) 東北電力メーター交換

▼20日(木) 鷹山賞児童作品展見学

(七戸養護学校中学部)



▲七戸養護学校、鷹山賞児童作品展見学の様子。

▼21日(金) 鷹山賞児童作品展見学

(七戸養護学校小学部)

RABBIT「GO-GO」丸

(地域特派員 織川)

▼23日(日)

第20回鷹山賞児童作品展

／濱田進展 最終日

ワークショップ(WS)

「クレパスで絵を描こう」

2F工房 (織川)



▲完成した作品。
WS「クレパスで絵を描こう」

▼25日(火) 可動式ラック組み立て

(金剛)

鷹山賞看板撤去

(青森スタジオ)

◆2月◆

▼8日(火) 公用車車検

▼9日(水) 電気設備定期点検(佐藤電気)

▼10日(木) 自動ドア点検

(ナブコシステム)

レジスター設置

▼24日(木) 教育版画

「虹の上をとぶ船」作品借用

／青森県立郷土館(遠藤)

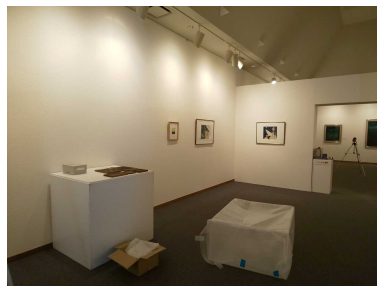
◆3月◆

▼2日(水) 戸村春樹展図録打ち合せ

(長尾印刷・遠藤・對馬・織川)

▼3日(木) 公民館講座打ち合せ

(南公民館館長補佐・織川)



▲展示作業「鷹山宇一の版画作品」



▲展示作業「虹の上をとぶ船」

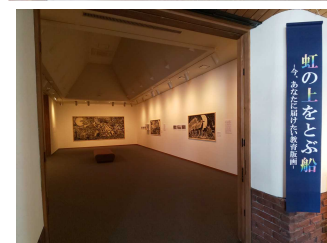
▼8日(火)

「虹の上を飛び船」初日

理事会打ち合せ

(理事長・常務理事)

館内展示風景



▼12日(土) 第1回理事会

▼17日(木) 友の会会報入稿

▼26日(土) 第1回評議員会

友の会会報発送

▼27日(日) WS「七宝焼き」予定

2F工房 (織川)

▼29日(火) 版画家・戸村茂樹氏来館

(メゾチント指導)

豆知識

【メゾチントとは】

銅板画の一種です。メゾチントは諧調表現にすぐれています。皆さんが聞きなじみのある「ドライポイント」や「エッチング」も銅板画の一種ですが手法が異なります。

鳥瞰図絵師 吉田初三郎の
「潮観荘」跡を訪ねて

八戸市 照井壽一

新型コロナウイルスの影響で自粛生活が続いていますが、観光パンフレットを片手に近隣の名所旧跡や文学碑、野外彫刻等を訪問して楽しんでいきます。左の写真は、一月中旬冬晴れの日に開放感を求めて、東日本旅客鉄道八戸線の種差海岸駅から徒歩一分の距離にある「大正の広重」と呼ばれた鳥瞰図絵師吉田初三郎（一八八四～一九五五）の別邸兼アトリエ「潮観荘」跡を訪問したときの写真です。

傍らの説明文によれば、初三郎は種差海岸を昭和十二（一九三七）年に国の名勝地に指定させた功労者で、昭和十一（一九三六）年より潮観荘を拠点に全国の鳥瞰図作品を制作したそうです。



「潮観荘」跡

下の写真は、元大正十三（一九二四）年（鐵道省）行案内に掲載されている初三郎が描いた東北の盛岡線の本線案

内図です。

写真では十分に伝えることは出来ませんが、線路を示す赤い線が左側から盛岡、好摩、一戸を通り、青森県（現八戸）、野辺地、浅虫、当時の終点青森までが描かれ、背後には、岩手山、十和田湖、八甲田山、酸ヶ湯、蔦温泉等も描かれています。八戸線からは支線地からは大湊線の沿線、右端には恐山、下風呂、さらに北海道、函館が描かれています。

当時、上野青森間は急行で十七時間を要したそうなので大変だったと思います。観光旅行であれば、案内図を見ながら車窓の景色を眺め、まだ見ぬ土地の風景に思いを馳せ、時にはお弁当を食し、お酒なども頂きながらのゆっくりとした楽しい時間でもあったように思います。若葉の季節になったならゆったりとした時間を楽しむ旅行に出かけたいと思っています。



参考資料
種差海岸散策ハンドブック
（八戸市）、その他

新規会員登録のお誘いと
友の会会員登録更新のお願い

令和3年度も会員の皆様には、友の会運営に多大なご理解とご協力をいただき、誠に有り難う御座います。新年度も友の会では、鷹山宇一記念美術館の応援と会員の皆様に喜んで頂ける研修旅行、講演会等を企画し、微力ながら地域文化の発展に寄与していく所存でございます。尚、更新及び新規入会手続きは、美術館窓口と同封の郵便振替により随時行っております。

○友の会の事業内容

- ①県内外美術館研修視察旅行（年2～3回）
- ②海外美術館研修旅行
- ③美術館作品購入基金への協力
- ④鷹山宇一記念美術館ボランティア協力
- ⑤会報の発行
- ⑥その他（美術講演会の開催等）

○一般会員

年会費 3千円
特典 ①無料入館券3枚。会員証提示により入館料2割引

○特別会員

年会費 1万円
特典 ①会員証特典に加えて
②新規加入の方に画集1冊贈呈

○賛助会員

年会費 2万円
特典 ①会員証特典に加えて
②新規加入の方に画集1冊贈呈

◇詳しくは、美術館までお問い合わせ下さい。

★お願い
会費納入通知書代金等の通信経費節減のため、窓口での会費納入へのご協力をお願い申し上げます。

編集後記
会報第106号をお届けします。令和3年度も会員各位から紀行文、旅行記等の投稿を頂き、会報をお届けすることが出来ましたことに感謝申し上げます。来るべき新年度は、ワクワク進み、飲み薬も普及してコロナ感染が収束に向かうことを切に願っています。今後とも、美術館の応援と会報作成へのさらなるご協力をお願い申し上げます。
（照井壽一）